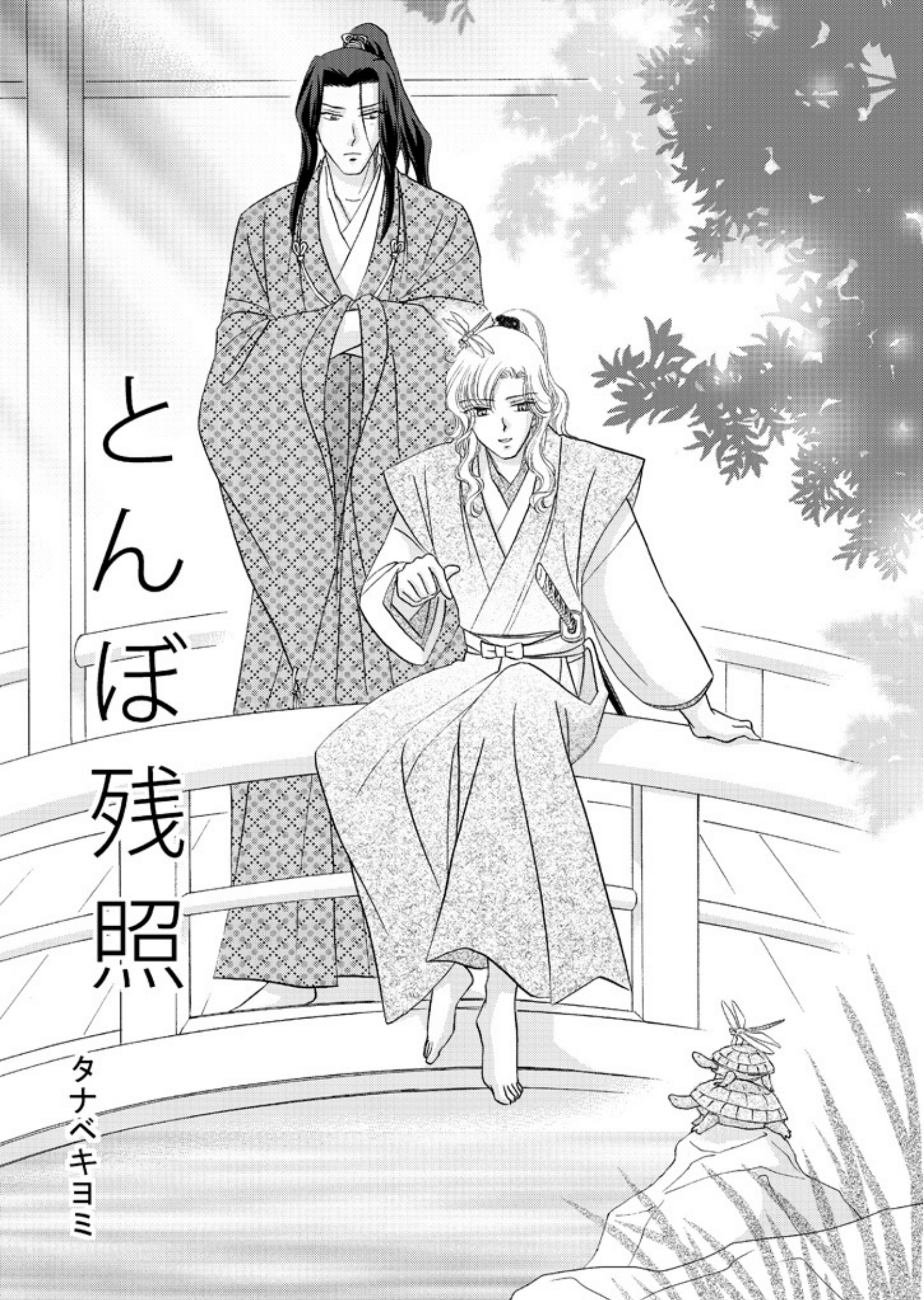


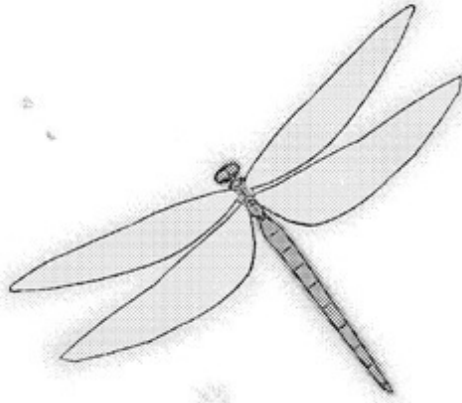
とんぼ
残照

タナベキヨミ



恋というものは
違ふと思う

ずっと共にありたいと
願う気持ち…



でもたぶん
同じようには
思ってもらえない

あの日…

あいつの頭の赤とんぼが
飾り紐みたいに見えた…





終わったよ
松寿丸



とんぼが…
お前の頭に…



う…
動くな

え…
なんで？



あ…

そんなの！
幼子じゃ
あるまいし！！

取るのか？
ひきーん
なら早く…

欲しいのは…
そう…



とんぼなんか
じゃなくて……

手に届く日は
来ないまま



ただきつと
見送るばかり――

～終～

あとがき…のような駄文

「とんぼ残照」で初めてこの二人をご覧になられた方々様におかれましては、謎なこと極まりない短編になっておりまことにあいすみません☆

又従兄弟どうしのこの二人が始めて一緒に登場した作品は「砕かれし鏡像」32ページです。

そこでは20歳くらいになつて二人なのですが、その後、話を過去に戻して、子供時代を描いた「遠くとも君に」という40ページもあります。

どちらの作品も、二人そのものの関係性が主軸ではないのですが…。

とりとめもなく描いている自称『明石たんシリーズ』の中で、どうやら自分が一番描きたいのは、『この二人が一緒に居るところ』なのだという自覚が、最近さらに強まって参りました。

「とんぼ残照」は、1ページ目(加筆してからは2ページ目)をラクガキとして描いたものをまず1枚絵として仕上げ、漫画形式で思い浮かんだ続きをも描いて、ブログにアップしたのが最初です。

(2010年の晩秋に描いたものを、昨年アップ)

そういつた経緯で描いたものでしたので、B1風…といった意識もなく、ただ思うままに仕上げたのですが…。

天然…と申しますか、考え無しで描くよりは一度きちんとジャンルやカテゴリなどを見据えておいたほうが良いのでは…と、遅まきながら考え始めている次第です。



が、突き詰めて考えても、私が思い描く男の子同士の感情というものは、恋愛でなく友情で、どちらかがちよつと

相手に強い想いを抱いたとしても、それはやはり『少々行き過ぎてしまった友愛の情』止まりのように思えます。

たとえ恋愛感情にまで高まったとしても、自分の男の子キャラ同士が『両想い』になることは無いだろう…と、ごく自然な感覚で思えてしまい…。

ついには想いが届かない、想いを受け入れてもらえない、そんな切ない感情のほうが、両想いハッピーエンドより好きなのかも知れません。

ともあれ、たつた5ページの謎漫画、ご覧いただきましてどうもありがとうございます!!!

前述の「砕かれし鏡像」も「遠くとも君に」も、

Jコミさんで全ページ公開いただいております♪
トップページの『時代物』カテゴリからすぐにお探しいただけるかと思われしますので、お時間お有りの節、ご覧いただけますれば光栄に存じます。

「砕かれし鏡像」は『桃山灰神楽』の中の2番目の話で「遠くとも君に」は『一抹の恋』の次に収録いただいております。どれも読みきり作品ではありませんが、ゆるく連作になっておりますので、お気の間かれました折、最初から続けてご覧いただけますれば…と。

遠からぬ日、また新作を…などと夢見ております。その折はまた、よろしくお願いたします♪